

森づくり構想等リニューアルのポイント

2017年3月2日
とよた森づくり委員会事務局

森林保全と人材育成部会での今後の検討事項 2

■ 森林保全

- 過密林の解消(間伐のさらなる推進)
- 急傾斜地や沢沿い(河畔林)の取り扱いの検討
- (資源が利用期を迎え、今後増加が予測される)皆伐や再造林放棄に対する対策の検討
- 針広混交林の拡大に向けた合意形成、適地の例示、技術の確立や普及

間伐面積の拡大や針広混交林の拡大に向けた取り組み、
豊田の森林保全に資する新たなルールの設定

■ 人材育成

- 林業従事者の確保(新卒、中途採用)、継続できる環境整備(研修、労働安全、待遇など)
- 森づくり構想実現に必要な人材像の検討、人材育成と活用
- 周辺の林業大学校との連携(特に就職後の教育訓練。既存の研修の補完)

林業従業者等の確保・育成・活用に向けた取り組み

■ その他

- 今後の市の財政状況も踏まえた上での、森づくり構想の実効策の検討
- 団地化が完了した森づくり会議の今後の展開

■ 地域材の生産

- 林業の採算性の改善、高い補助金依存度の改善
- スイングヤーダにこだわらない、柔軟な作業システム・最適な路網の検討
 - 森づくり構想から10年が経過し、木材の大径化も進行
 - 長期的な森づくりを考える上での適切な作業システムや路網は何か？
- 現場作業の技術力の向上、人材育成の必要性

採算性向上のための作業システム、最適な路網配置、人材の育成

■ 地域材の流通・利用

- 市内における地域材の積極的な活用・高付加価値化、安定供給に向けた仕組みの構築
- 中核製材工場への原木供給のあり方
- 市民を対象とした、森林・林業やその良さ・重要性についての普及啓発

地域材の利用を拡大するための流通・利用体制の構築、
消費者(市民)への普及啓発(利用拡大)

森づくり構想リニューアルに向けた基本的な考え方

1. 森づくり構想の目標は変更しない
 - 当初掲げた目的や4つの理念を継承しつつ、「地域の森林を持続的に保全する」仕組みをつくる
2. 森づくり構想の目標実現に向けたアプローチ手法を見直す
 - 間伐推進、針広混交林化の拡大のための人材育成
 - 森林保全と木材生産のバランスを担保する方針・施策
 - 急傾斜地保護、河畔林保護
 - 市内森林のゾーニング
 - 林業採算性の向上、木育などを通じた地域材利用の活性化 他
3. 構想等の目標値、重点プロジェクトの設定の見直し
 - 構想の森林整備の目標値、基本計画の年間間伐面積の再設定
 - 森づくり基本計画の重点プロジェクトの再検討
4. 見直しにあたっての留意点
 - 20年計画という森づくり構想の長期性と、持続的な仕組みづくり
 - 国・県・市の今後の緊縮財政も見据え、選択と集中、集中から分散へ

- 重点事項1: 保全に関するルールの設定
 - 山地災害の起こりやすいエリアでの保全ルール(0次谷や傾斜35度以上の扱い)
 - 河畔林・湖畔の保全の保全ルール
- 重点事項2: 地域材利用の活性化
 - 林業採算性の向上(作業システムの見直し、路網、販売法(中核製材工場など))
 - 木育などの普及啓発
- 重点事項3: 人材の確保・育成・活用
 - 豊田の森づくりに求められる人材像と、人材の育成方法や配置
 - 労働安全最優先、公益的機能発揮を可能とする人材育成

- 重点事項4: 森林の整備目標の数値等の検討
 - 航空写真分析による森づくり構想の整備目標の再構成
 - 年度別間伐計画の変更
- 重点事項5: 市内森林のゾーニング
 - 木材生産適地・不適地のゾーニング

※本日検討の箇所

- 重点事項6: 市の補助金制度の刷新
 - 国・県・市の緊縮財政に対応できる、各種補助金の再構築



■ 森づくりへの想い (とよた森づくり委員会からのメッセージ)	1
■ 第1章 豊田市100年の森づくり構想とは	2
1. 森づくり構想策定の経緯とねらい 2. 森づくり構想の位置づけと「100年」の持つ意味 3. 森づくり構想の4つの特徴	
■ 第2章 豊田市の森林の現在の姿	4
1. 豊田市の森林 2. 人工林の現状 3. 天然林の状況 4. 豊田市の森林資源 5. 東海豪雨の教訓	
■ 第3章 豊田市の森林の過去	6
1. はげ山地帯 2. 古くからの林業地帯 3. 拡大造林期 (昭和30年代) 4. 管理されなくなった人工林	
■ 第4章 豊田市の森林の将来像	7
■ 第5章 豊田市の森づくりの基本理念	9
■ 第6章 豊田市の森づくりの基本的施策	10
1. 森づくりのための主要施策の体系	10
2. 森林管理の基本方針	
(1) 森林の立地条件等の特性に応じた森林区分と施業方針等	11
(2) これからの森林施業の長期的指針	13
(3) 森林の整備目標	15
(4) 人工林管理のポイント	17
(5) (4)人工林管理のポイント	17
3. 木材資源の循環利用のための長期の指針	18
4. 森林の把握	18

重点事項5
市内森林のゾーニング

地域の人口減等を踏まえた
手のかからない施業手法

針広混交林化のための技
術論の整理、モデル現場の
設置、モニタリング

(4) 森林保全のためのルール設定

重点事項4
森林の整備、目標の
数値等の検討

重点事項1
保全に関する
ルール設定



<香嵐溪の初夏>



<若葉萌ゆる森林>


	重点事項2 地域材利用の活性化		
		作業システムにあわせた壊れない道づくり	
			重点事項3 人材の確保、育成、活用
5.地域材の利用拡大			19
6.林業用路網の整備		木の駅などの地域独自の取り組み	19
7.地域づくりと一体になった森づくり			20
8.共働による森づくり【コラム】豊田市「市民意識調査」結果			20
9.森づくりの担い手の育成【コラム】緑の雇用担い手育成対策事業			21
10.森林環境教育の推進【コラム】とよた森林学校			22
11.とよた森づくりの日及び森づくり月間			22
12.都市近郊林の保全		自力から委託への流れ	22
	市民への普及啓発・PR		

第7章 森づくりのための推進体制 23

- | | |
|----------------|----------------|
| 1.共働と連携による森づくり | 4.豊田森林組合との連携 |
| 2.とよた森づくり委員会 | 5.市における専門職員の育成 |
| 3.森づくりのための地域組織 | |

第8章 豊田市が目指す森づくり 25

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1.森林の特性に応じた森林管理の手法 | 3.市町村の枠を超えた流域単位の取り組み |
| 2.森林に関する豊田市の独自施策 | 4.みんなで進める新しい豊田市の森づくり |

	1.豊田市の森林	27
	2.森林の持つ多面的機能	28
	3.間伐手遅れ林の現状	29
	4.高性能林業機械と「低コスト木材生産システム」	30
	5.地域材の活用	31
	6.市有林の現状と将来	32
	○豊田市森づくり条例	33
	○森林・林業用語解説	35
	○構想策定までの経緯	37
	○とよた森づくり委員会名簿	39

※森林面積等の数値については、特別の記述がない限り、国有林を除くもので、平成18年3月末現在の統計資料を用いました。



<西三河地域の水がめ奥矢作湖>



<整備された人工林>